

科目名	観光政策論	科目コード	1224	単位数	3
担当者名	中鉢 令兒	開講セメスター	第4セメスター	開講年次	2年次

● **授業のねらい**

日本の現在に至る観光行政の流れと、現在に至った歴史的背景を理解する。また観光活動の飛躍的進歩を遂げるアジア観光の現状を把握し、20世紀のインバウンド政策の模範的政策としてシンガポールの観光政策を学ぶ。また、アウトバウンドの典型的タイプのハワイ観光について学ぶ。

● **到達目標**

観光政策の基礎を理解する。観光庁の役割を歴史的視点から理解する。
観光産業の就職時の志望動機が、正確に書けるようになることを目指す。

● **授業内容**

- 1週目 ガイダンス：日本の観光政策の流れの概括。
- 2週目 江戸時代までの観光政策：街道の整備、宿場町、講の誕生（浪速講）。
- 3週目 江戸時代の観光活動：江戸名所図会、都名所図会の普及、等余暇文化の誕生。
- 4週目 開国期の観光活動を取り巻く環境：福澤諭吉（世界国尽）、内田正雄（輿地誌略）の理解。
- 5週目 民間観光活動：ホテル文化（金谷ホテル、富士屋ホテルetc）と観光振興の事例。
- 6週目 民間観光活動：油屋熊八と別府観光振興、小林一三と都市観光。
- 7週目 ジャパン・ツーリストビューローと木下淑夫、国際観光ホテルの推進。
- 8週目 戦後の観光産業の再編と民間企業の誕生：交通公社、JTB、日本旅行など。
- 9週目 観光政策の雛型：シンガポールの観光政策から学ぶ。
- 10週目 シンガポールのインバウンド政策から学ぶ：MICE政策。
- 11週目 戦後のアウトバウンドの雛型を作る：JTBの戦略・ハワイ観光。
- 12週目 ハワイ観光の仕組みから、海外旅行ビジネスが展開される。
- 13週目 アメリカの観光振興：ロケーションサービスと、地域再生の手法
- 14週目 観光庁の役割：少子高齢化のカギとしての観光産業の考え方、観光圏構想の理解。など。
- 15週目 観光庁政策の要：MICE政策を探る。特に九州の大名小学校跡のGROTH NEXTと起業振興システムについて学ぶ。
- 16週目 期末テスト、湯布院のまちづくりのビデオと感想文。

● **準備学習(予習・復習)等の内容**

毎回な確認問題を実施する。授業の最初に前回学んだ確認問題の解答をする。中間テスト、期末テストはこの確認問題の把握度を測る。毎回20問程度である。

● **成績評価の方法・基準**

中間テスト（35%）、期末テスト（35%）、確認テスト（15%）、授業への積極性（15%）
テストは、80%まで完全回答ができるまで実施する。ただし、段階的に点数を削減する。

● **履修上の留意点/課題に対するフィードバックの方法**

単に単位修得ではなく、観光的発想を身につけることを徹底的に行う。内容は旅行業界の基礎知識であるので、就職活動の一環として考えること。旅行代理店就職希望の学生は必須である。国家試験合格は、多くの人が誤解をしているが必須ではない。

● **テキスト**

特にないが、不明な点は観光学入門（岡本伸之）有斐閣アルマ¥1980を活用すること

● **参考書**

観光学入門（同上）

● **更新日付**

2019/02/01 04:31